



### 【めざす生徒像】

- 『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒 【社会の創り手となる生徒の育成】
- 『礼節』 礼儀と節度を守る生徒 【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】
- 『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒 【多様な人々と協働できる生徒の育成】

### 【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。



若葉が日ごとに輝きを増す5月下旬、本校の3年生は二泊三日の修学旅行を実施しました。今回の旅の大きな目的の一つが、被爆地の長崎での「平和学習」です。3年生は出発前、総合的な学習の時間を使って、『平和とは何か』について考えてきました。

3年生一人ひとりが平和への願いを込めて折った千羽鶴を手に、期待と緊張が入り混じるなか、長崎の地へと降り立ちました。

長崎到着後、最初に向かったのは平和公園です。天空を指さす平和祈念像の前で記念撮影をしました。その後、爆心地公園へ移動し、平和セレモニーを行いました。観光客も多く訪れる場所ですが、セレモニーを始めると、その場は静寂な雰囲気になりました。

実行委員による『木津第二中学校の平和宣言』では力強い宣言がなされました。

- 一、悲惨な歴史と被爆者の思いを学び、平和の尊さを次の世代へと語り次ぎます。
- 一、家族や友達との当たり前の日常に感謝し、このかけがえのない平和を守り抜きます。
- 一、言葉や暴力で誰一人として傷付けず、互いを認め合い、誰もが自分らしくいられる場所を築きます。

全校生徒で協力して作り上げた千羽鶴を奉納し、全員で黙祷を捧げました。生徒たちの表情からは、修学旅行という「楽しみ」の顔とは別の、歴史を受け継ぐ「当事者」としての真剣な眼差しが感じられました。

長崎原爆資料館の暗い通路を進むにつれ、生徒たちの口数は少なくなっていました。熱線で溶けたガラス瓶、爆風でひしゃげた建物の柱、そして亡くなった幼い子供の衣類。教科書の写真で見るとは違う、圧倒的な「実物」の存在感に、多くの生徒が足を止め、熱心に展示物を見ていました。

今回の平和学習を通して、生徒たちの振り返りシートには多くの気付きが綴られています。「平和は誰かが作ってくれるものではなく、自分たちの日常の延長線上にあるものだ」と気づいた、「意見の違いを言葉で解決する努力を、明日からの学校生活でも大切にしたい」といった感想が寄せられています。長崎で見た、美しく復興した街並み。それは、多くの犠牲の上に築かれた「平和の尊さ」の証でもあります。この修学旅行で得た学びを、単なる思い出で終わらせるのではなく、これからの学校生活や地域社会のなかで、具体的な「行動」へと繋げていってほしいことを期待しています。

最後になりましたが、今回の修学旅行実施にあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました保護者の皆様、そして温かく迎えてくださった現地の皆様に、心より感謝申し上げます。



平和セレモニーの様子



日を追うごとに日差しが強くなってまいりました。5月下旬に、すでに全国各地で30℃を超える「真夏日」が観測されています。体が暑さに慣れていないこの時期は、『熱中症』への注意が特に必要です。そこで大切になるのが「暑熱順化」です。暑熱順化とは、体が暑さに慣れ、体温調節がスムーズにできるようになることです。通常、体が慣れるまでには数日から2週間ほどかかると言われていています。本格的

な暑さが来る前に、

- 適度な運動：汗をかく習慣をつける。軽く汗ばむ程度に歩くことでも効果的です。
- 湯船に浸かる：お風呂でじわりと汗をかくことで、発汗機能を高めます。
- 規則正しい生活：朝食をしっかり摂り、十分な睡眠で自律神経を整えることが、暑さに強い体づくりの基本です。

本校におきましても、1年生には明治国際医療大学の吉田教授をお招きし、2・3年生にはクラスにおいて熱中症の予防について学習の予定をしております。

学校と家庭で力を合わせ、この夏の暑さを安全に過ごせるようにいしましょう。